

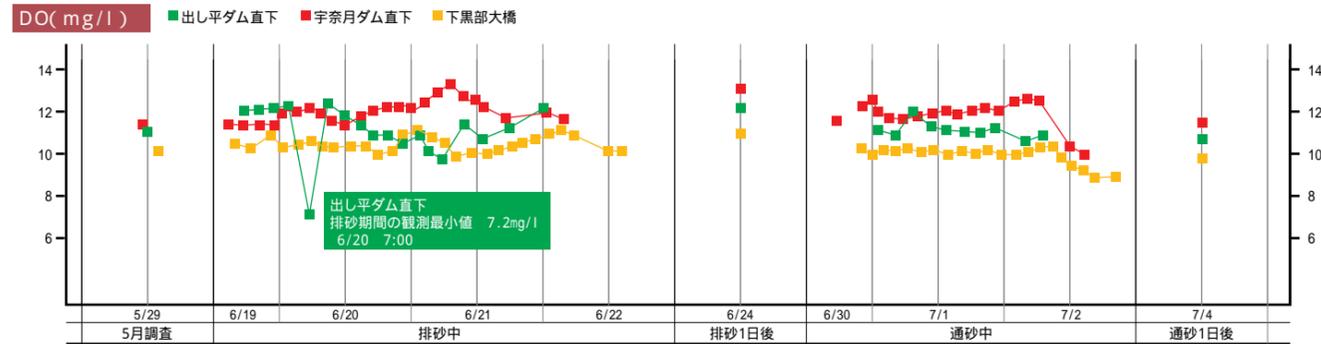
# 環境にやさしい排砂を目指して

## 全国初の連携排砂・連携通砂の環境調査

### 主な環境調査結果

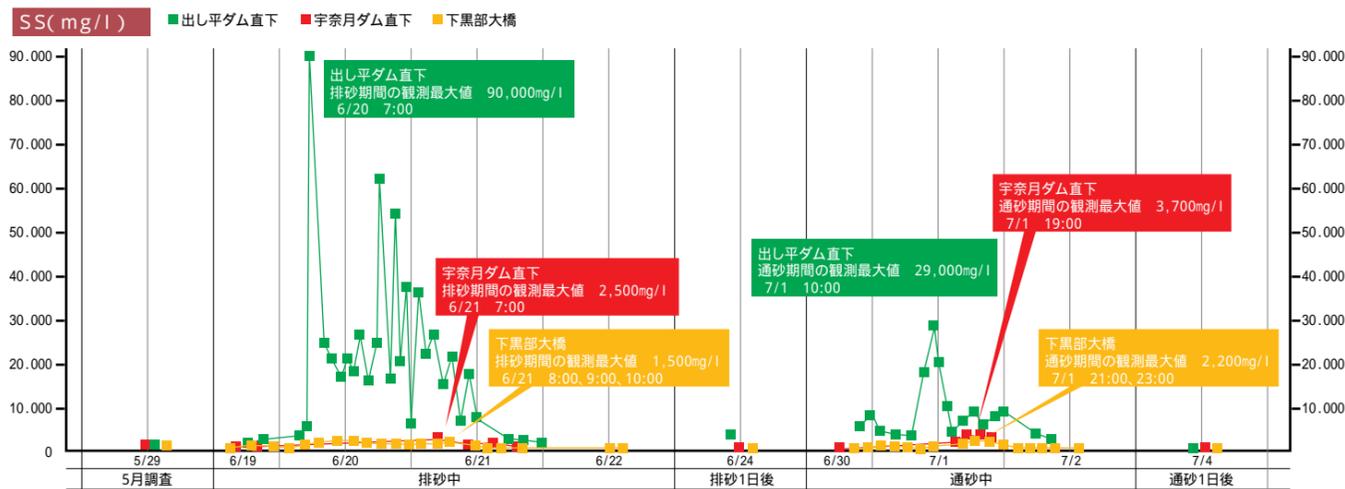
河川の水質調査結果 (DO:溶存酸素 単位:mg/l)

DO【溶存酸素】...水中に溶解している酸素ガスの量で、水生生物の生活に不可欠なものであり、値が大きいほど良好です。調査結果は、過去の排砂時から比べても、特に小さな値ではなく、下流では通常の洪水時と変わらない値となっています。



河川の水質調査結果 (SS:浮遊・懸濁物質 単位:mg/l)

SS【浮遊・懸濁物質】...水中に浮遊又は懸濁している直径2ミリ以下の粒子状物質の量で、水の濁りの指標として使われており、値が小さくなるほど良好です。調査結果では、過去の排砂から比べても特に大きな値ではなく、下流では通常の洪水と変わらない値となっています。



DOの観測最小値比較表

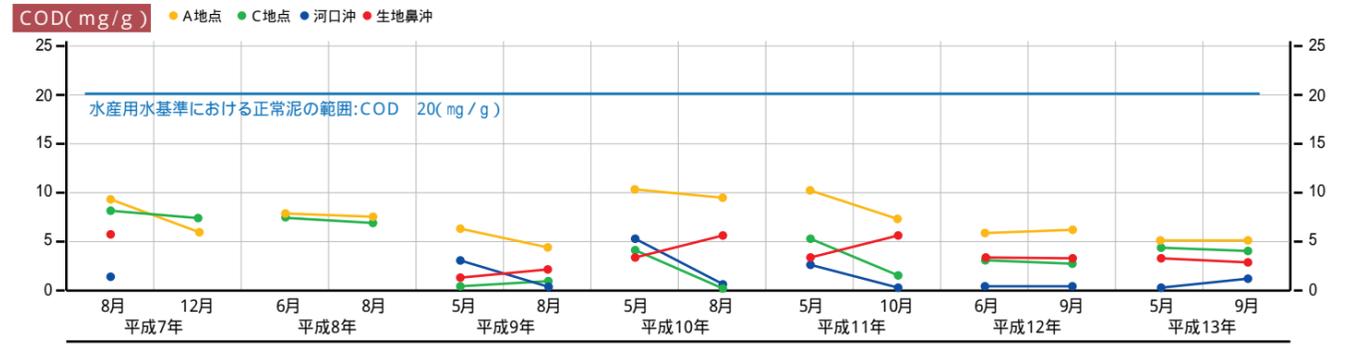
調査時期	調査内容	DO (mg/l)		
		出し平ダム直下	宇奈月ダム直下 (山彦橋)	下黒部橋
H7.7	大出水	—	11.3	10.5
H7.10	緊急排砂	8.8	9.7	8.9
H8.6	緊急排砂	10.7	10.3	9.8
H9.7	緊急排砂	9.8	9.2	9.3
H10.6	排砂	8.2	7.0	7.3
H10.7	出水	—	10.5	9.5
H11.9	排砂	6.0	5.8	6.5
H13.6.19~	連携排砂	7.2	11.4	10.2
H13.6.30~	連携通砂	11.1	10.6	9.6

SSの観測最大値比較表

調査時期	調査内容	SS (mg/l)		
		出し平ダム直下	宇奈月ダム直下 (山彦橋)	下黒部橋
H7.7	大出水	—	3,700	1,800
H7.10	緊急排砂	103,500	29,400	26,000
H8.6	緊急排砂	56,800	9,470	6,770
H9.7	緊急排砂	93,200	28,900	4,330
H10.6	排砂	44,700	9,400	6,750
H10.7	出水	—	6,090	5,260
H11.9	排砂	161,000	52,100	25,700
H13.6.19~	連携排砂	90,000	2,500	1,500
H13.6.30~	連携通砂	29,000	3,700	2,200

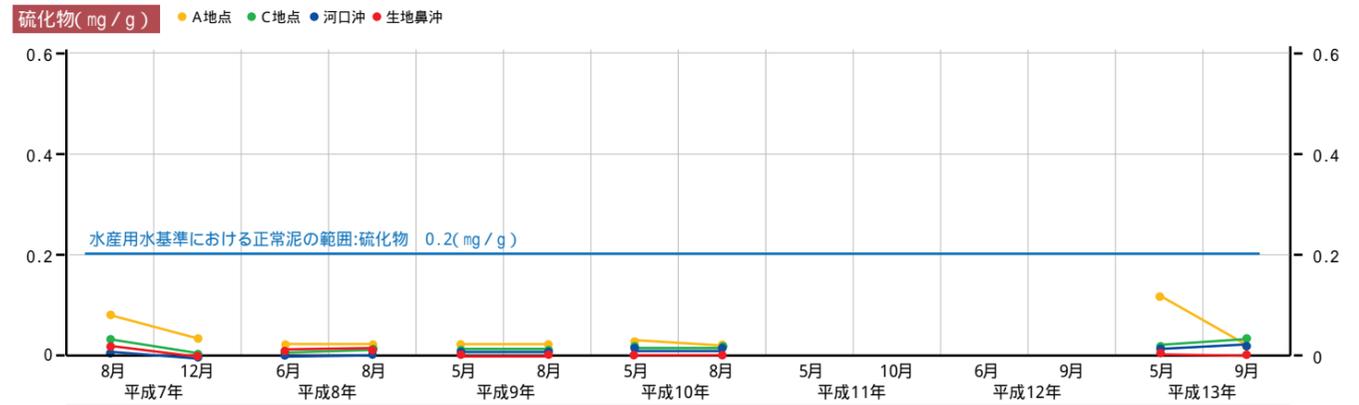
海域の底質調査結果 (COD:化学的酸素要求量 単位:mg/g)

COD【化学的酸素要求量】...被酸化性物質(主として有機物)を酸化剤で酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、有機汚濁の指標として使用され、値が小さいほど良好です。調査結果には、過去からの大きな変化はなく、水産用水基準の20mg/gを超えるような値はありませんでした。



海域の底質調査結果 (硫化物 単位:mg/g)

硫化物...硫黄と水素、カルシウム又はナトリウム等の化合物量で、還元性(腐敗性)の環境下では大きな値を示します。調査結果は、過去からの大きな変化はなく、水産用水基準の0.2mg/gを超えるような値はありませんでした。



硫化物は、平成10年まで継続調査を実施したが、データに変動が少ないため一時中断し、平成13年度より再度調査を実施。水産用水基準とは...(社)日本水産資源保護協会が定めているもので、水産業の生産基盤となる場の水生生物保護のための環境基準。

## 全国初の排砂は環境にやさしい... 黒部川ダム排砂評価委員会での評価

全国初の連携排砂・連携通砂の実施結果に対して、計3回にわたって「黒部川ダム排砂評価委員会」が開催され、環境影響調査結果に対して、以下のような評価をいただいています。

第9回 平成13年6月29日開催  
『連携排砂における環境影響調査の速報値について』  
【委員会での評価】

「速報値を見る限り特に問題となる現象は認められない。委員会としての評価は、環境調査結果がすべて出揃った段階で出すこととする」

第10回 平成13年8月8日開催  
『連携排砂、連携通砂時の環境影響調査結果について』  
【委員会での評価】

「今回提示の環境調査データ等を見る限りにおいては、今までの排砂に比べて影響は小さくなっていると考えられる」

第11回 平成13年12月11日開催  
『排砂後の環境影響調査結果について』  
【委員会での評価】

「今回の調査結果において、特に問題となる現象は見られない。なお、今後も継続して調査を実施し、中長期的に見ていく必要がある」



平成13年12月の評価委員会の模様

